

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100418		
法人名	株式会社 あしのメディカル		
事業所名	グループホーム和喜あいあい(ユニットA)		
所在地	釧路市星が浦大通3丁目9番29号		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100418-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和2年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人ひとりの思いを大切にしています。ご本人の希望を御家族と協力し出来る限り叶えられる様、支援しています。訪問看護ステーション、協力医療機関が隣にある為、体調がご心配な時にも直ぐに相談できます。</p> <p>平屋建ての為、気軽に外出できる利点があり、温かい季節は外で過ごす時間を沢山持っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は同じ敷地内に協力医療機関や老建設・訪問介護ステーション・ヘルパーステーション・グループホーム・保育園などがあり、また、近くにスーパーがあって毎日利用者と買い物に行くなど生活利便性がよい。事業所は玄関を境にユニットが左右に分かれており、共用空間は広く明るくゆったりとしている。浴室も職員が介助し易い浴槽が設置されている。職員も利用者も明るく、生活が穏やかな生活空間を醸し出しており、事業所の名前の「和やかに喜び」を感じられるよう日々過ごせるような支援を行なっている。地域住民とも馴染みの関係にあり、町内行事のお祭りや敬老会、新年会などに利用者が参加し交流している。また、近隣の保育園児が毎朝事業所の前を歩いて通うため利用者といさづつを交わしている。管理者と職員はコミュニケーションもよく会議での意見や提言・相談しやすい環境にあり、管理者は職員の話をよく聞き、運営に反映させている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に掲示し、いつでも確認できるようにし常に実践して行ける様に取り組んでいる。	事業所独自の理念をホームに掲示し、地域密着型の運営について理解しながら、今後の見直しも含めて職員全員で共有し、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会行事には全て利用者、職員で参加させて頂いている(町内清掃、夏祭り、敬老会、新年会など)また今年度は地域の小学生との交流の機会が作れた。	町内会に加入し、町内会の行事(町内清掃、夏祭り等)に利用者に参加して交流を深めている。保育所園児や小学校児童との交流もあり、利用者の楽しみになっている。買い物に行くと店員さんと挨拶を交わし馴染みの関係になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを利用し情報を公開させている、また今年度は小学校の総合学習としてグループホーム利用者と小学生の触れ合いの時間が作れる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、町内事務局長、民生委員、包括支援センター職員の皆様が毎回参加してくれホームの事例について丁寧にアドバイスをくれる為、サービスの質の向上に繋がっている。	地域包括支援センター職員、町内会会長等が参加して、敷地内にある系列のグループホームと合同で年6回開催している。活動報告や行事報告、最近の異常気象による災害等に対する意見交換を行い、助言を得て運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事などは都度相談させて頂き、いつも丁寧に対応して頂いている。また情報なども都度提供して頂いており安心してサービス提供が出来ている。	管理者が市担当者に、運営状況や生活保護受給者の報告、待機者などの相談をして意見や助言を得ている。これからの運営を含めて協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており適切なケアが提供されているか委員会職員で検討、評価を行い結果を全職員に周知させている。また委員会会議内容は運営推進会議でも取り上げ報告している。	身体拘束廃止委員会を2カ月に1度開催している。身体拘束等の小さな事例も出しながら意見交換して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会会議の内容は運営推進会議にも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会(事業所内、外部研修)を実施し学ぶ機会を定期的に作り職員への更なる意識付け、勉強の機会を作っている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネについては関わる機会が有るが介護職員では関われる機会が少ない。今後、学ぶ機会を作る事も必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。出来る限り安心して利用して頂ける様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関には、ご意見箱を設置。苦情申し立て機関も外部に設置している。日頃から御家族との関係作りを大切に考え、何気ない会話からご意見、ご要望が聞けるように心がけている。	管理者や職員は家族とのコミュニケーションを大事にしており、家族の来訪時や電話の会話から意見や要望等を聞いている。得られた意見、要望は職員全員で共有している。玄関に意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ねの職員が出来ていると感じてくれている。更に職員が働きやすく、働き甲斐を持てる職場環境を目指していく。	管理者は日常的に職員の話に耳を傾け相談にのったり、会議では意見や要望を聞くなどして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者に職員個々の努力、実績を伝えている状況。それが各職員に反映される様に今後も努力する必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が行っている。希望する研修には全て参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協賛法人内で他事業所との交流の機会などを持つ事が出来ている。そこで得た情報を質の向上に活かせる様に取り組んでいる。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前から事前の情報収集、利用後の状態を見極め情報収集、共有し安心してサービスを受けられる様に最大限の努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族とは常に良好な関係を築いていける様に努力している。いつでも話やすい、相談しやすい関係を目標としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込み段階からグループホーム利用以外にも協力出来る事が有れば相談に乗り対応させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を一緒に行う事を大切に、家事仕事や買物の機会を多く作り出し協力して生活を営む関係を作り出している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の協力を得られる時は共に支援し難しい場合は事後報告を行い出来る限り一緒に本人を支えて行ける様に心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの関係性全てに支援出来ているとは言えないが新しい関係作り(町内の方、近隣の商店)も出来る様に支援させて頂いている。	散歩や毎日の買い物で店員さんと会話したり、町内会行事や隣接する施設合同行事に参加するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、相性などを考慮し座席位置を変更したり、いつでも安心して楽しく過ごせる空間になるように努力している。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了した御家族様が来設してくれる事もあり、そういった事を踏まえと努力していると思われる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の想いを出来る限り尊重している。また常に本人本位で検討し支援に活かしている。	日常の会話から思いや意向を把握して、連絡ノートに記載して共有し、本人本位に意向や希望に応えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りの情報を集め支援に活かしている。グループホーム利用後も情報収集は欠かさずサービスの質の向上に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態をしっかり把握し認知症進行の緩和、諸症状の緩和を目的としたケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に必要に応じ関係者と意見交換し活きた介護計画となるよう努力している。	利用者、家族の意見や要望を反映させ、3ヶ月毎に介護計画を見直し、家族に説明して同意を得ている。また、状況の変化に応じて、医師の意見を参考に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌、支援経過記録、個人情報ファイル、情報共有ノートを用意し職員の間で共有し、気づきやアイデアを活かし良いケアに繋がる様、努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まりごとは設定しておらず、常に利用者主体を心掛けているので臨機応変に対応できる体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事には毎回参加させて頂いている。町内ゴミ拾いや町内資源回収では利用者と一緒にいき利用者の力を活かしながら豊かな人間関係の支援が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医を利用後も受診出来る様に支援させて頂いている。全利用者が利用前からのかかりつけ医を受診している。	入居前からのかかりつけ医への受診は基本的には家族対応での受診になっているが、職員が同行受診することもある。訪問看護師が週1回来訪して利用者の健康管理を支援している。	

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看さんにはいつでも状態を相談できる関係となっている。また隣接して訪看が有る為、不安な時はいつでも看護職員が診に来てくれる体制が有り、敷地内には協力医療機関も有る為、安心してサービス提供が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室、相談室とは定期的に連絡を取り合い情報の共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで出来る事、出来ない事の説明はしっかりと行っていつ、隣接している医療機関の協力を得ながらグループホームを利用する事も可能な事など安心出来る様に説明、支援させて頂いている。	入所時に家族や利用者に重度化や終末期について指針を説明し同意を得ている。重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して希望に添えるよう支援している。看取りについては段階的に家族に意思確認を行いながらケアの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員とは言えないのが現状。敷地内に協力医療機関も有、急変時は夜間帯などでも都度相談に乗ってくれる為、安心してしまっている所も有る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内との協力体制も整っており、近隣には協力を得られる施設が存在しており、全施設、町内の皆さん合同での訓練も実施している。	避難訓練を年2回、消防署の指導、町内会住民の参加協力を得て実施している。近隣施設と合同で災害時の協力体制もできている。運営推進会議では地震や津波などによる複合災害について提言を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本を守りつつも、その方との関係性などを考慮している為、言葉使いが外部者が聞くと問題と感ずる場合も有ると思われる。出来る限り利用者の皆さんが笑顔で過ごせる関係を考え実践している。	日頃のトイレ誘導や入浴時の着脱時に誇りやプライバシーを損ねないよう言葉や対応に心がけている。	利用者と職員が長年接している中で、家族的な感覚で言葉や接遇が利用者の尊厳やプライバシーを損ねる場合も増えると思われる。会議や研修で接遇について事例を用いて学びながら、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーが確保されることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームの中では常に選択肢を持てる様に支援し、自身で決定できるように支援させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は行動のきっかけ作りを大切にしており、それを利用者にて自己決定して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常その方々が行っていた事を自然にホームでも行える様に支援させて頂いている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになる様に本人の嗜好を大切にしている。利用者と一緒に調理から片付けを行う事を約束としている。	利用者の嗜好を把握し、利用者と一緒に食材を購入している。利用者は能力に応じて準備から後片付けまで行っている。駐車場で焼肉を楽しんだり、行食事や外食をしたりして楽しい食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を確認できるチェック表をもちい支援させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関の歯科往診、口腔ケア実施、口腔ケア指導が有る為、清潔を保つ為に必要な知識など職員の理解度が増してきている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	グループホーム利用後は全ての方がトイレ使用に変更させて頂いている。その中で排泄の失敗を減らせる様に個人のパターンを理解し定期的な誘導などで支援させて頂いている。	排泄チェック表等から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導してトイレでの自立排泄を促している。失敗が多くなった場合には下着や衛生用品の使用を随時検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物、飲み物、運動の大切さを全職員が理解し支援に活かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のきっかけは職員が作り出す事が多いが曜日に関係なく毎日その時の状況により入浴できる体制を取っている。入浴が好きな方なら週に5回、6回と入浴される方もいる。	週2回を原則としているが、希望に合わせて入浴できるよう対応している。嫌がる人にはタイミングや職員を替えるなどして無理なく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全ての利用者が安眠出来ている事から、そういった支援が出来ていると思われる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個別ファイルに管理、内容を確認し理解できるように周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しめる事、充実した時間を過ごせる事の為に多くの選択肢を職員が作り出し利用者の皆様がその時の気分で参加できる支援を心掛けている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、買物に出る事を約束としており一日一回は外に出る機会、歩く機会を作っている。	散歩に行ったり、毎日食材や日用品を買いに出掛けている。ドライブで紅葉見学などに出かけたり、町内会のお祭り等に参加するなど、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理の方もいる、金銭管理に不安、混乱を持ってしまう方は管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりいつでも可能、携帯電話を所持している利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事毎の室内飾り付けは欠かさず行い利用者の皆様が見て感じ取れる工夫を持っている。建物の設計上でも戸惑うような場所などの事例は現在まで無し。	平屋建てで玄関を挟んで右左にユニットが分かれている。大きな居間には何時も利用者が集まり寛いでいる。調理室からは利用者の動向が一望でき安全性が確保されている。壁には利用者が書いた書道やぬり絵、季節の飾り物等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くの椅子、ソファを用意しており、その時の気分で独りになれたり気の合う方と一緒に過ごす時間を利用者さんが選択できるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の事情により新しいものを利用する方が多いが利用者皆様、自身の部屋と認識されている方がほとんどの為、安心して過ごされると感じられる。	馴染みのタンスやテレビ等備品を持ち込み、家具の配置も工夫がされて居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置なども単独で歩く時の支えになる様に工夫したりできる事をより安全に行える様に努力させて頂いている。		